

地域に根ざしたE S D活動の実践

学校名 北海道上士幌高等学校
校長名 金山 泰幸
担当者名 宮越 重臣

1 活動の趣旨

本校は、北十勝にある1学年2クラスの小さな学校です。上士幌町は熱気球で有名な町であり、本校は全国でも珍しい熱気球部があります。恵まれた自然環境の中、多くの活動を通して地域を大切にしようとする心を育てています。

地域社会の活性化を主なテーマとしてE S D活動に取り組んでいるとともに、上士幌町教育委員会のかみしほろ学園構想への参加で地域との連携も深めています。

2 活動計画

月	実践内容
4月	北海道、十勝の歴史を学ぶ（上士幌学）
5月	上士幌の歴史を学ぶ（上士幌学） 北海道の食文化・アイヌの食文化を学ぶ（上士幌学） 上士幌のふるさと納税について学ぶ（上士幌学） 町内空き缶回収クリーン作戦への参加（ボランティア）
6月	上士幌の観光について学ぶ（上士幌学） 上士幌の環境（音更川、水生昆虫と水質調査）を学ぶ（上士幌学）
7月	上士幌の環境（音更川、水生昆虫と水質調査）を学ぶ（上士幌学）
8月	上士幌の畜産を学ぶ（上士幌学） 北海道バルーンフェスティバルへの参加・協力（熱気球部・ボランティア）
9月	上士幌の林業を学ぶ（上士幌学） 北十勝の食材・上士幌の食材について学ぶ（上士幌学） 「異世代交流会」の取り組み（熱気球部・家庭部・吹奏楽部）
10月	上士幌の食にかかわる産業について学ぶ（上士幌学） かみしほろ学園教育研究大会
11月	上士幌にまつわる作品の制作・活動報告会準備（上士幌学）
12月	上士幌学の活動報告会（上士幌学） 上士幌学の個人成果発表準備（上士幌学）
1月	上士幌学の個人成果発表（上士幌学）
2月	上士幌ウィンターバルーンミーティングへの参加（熱気球部）
3月	

3 活動事例

(1) 学校設定科目「上士幌学」の実施

一昨年度より3年生の選択授業において「上士幌学」を設置し、郷土の自然や歴史、食や観光について総合的に学ばせています。この科目は教科横断的なカリキュラムを組み、理科・地歴公民科・家庭科・商業科の先生達が連携して授業を行っています。先生達による授業のほか、町内にいる外部講師による講話や現地視察など、体験的な学習も多く行っています。

(2) 北海道バルーンフェスティバルへ参加、協力

北海道バルーンフェスティバルは8月に行われる上士幌町を代表する熱気球のイベントです。熱気球部員達は競技への参加を通して、熱気球の魅力や地域の活性化について学びます。また、大会運営のボランティアとして他の部活動の部員達も協力しています。上士幌町や上士幌高校にとって、熱気球をいかに持続発展させていくかということは大きな課題であり、そういった観点からもまさにESDの取り組みだと言えます。

(3) 教科横断型「平和学習」の実施

本校の見学旅行のテーマは「平和と文化を学ぶ」です。平和学習は教科横断型の事前学習を行っています。国語科では広島や長崎を題材にした小説読解、地歴公民科では戦争が起こった背景や実際の様子などを学びます。こういった学習を行った上で現地を訪れることで、生徒達は戦争の悲惨さ、そして二度と戦争を起こしてはならないことを強く実感できます。

(4) 「異世代交流会」の取り組み

上士幌町老人クラブと家庭部・熱気球部・吹奏楽部との交流事業です。老人クラブの方々に高校に来ていただき熱気球の体験搭乗や小物づくり、レクリエーションや演奏会などを通して異世代間の交流を行います。このような取り組みを通してコミュニケーション能力などを身につけます。

4 成果と課題

ユネスコスクールに認定され5年が経過し、本校におけるESD活動の推進として学校設定科目「上士幌学」の開講による「地域に根ざしたESD活動の充実」を今年度もテーマにしています。それにより、より多くの生徒がふるさとの魅力を学び、それを幅広く伝えていけるような取り組みを実施しています。

その一方で、担当者が永年継続担当とはならないので、ユネスコスクールの理念やESDの考え方をしっかりと校内で浸透させることができていない現状です。校内研修会などを通して、より多くの先生方に理解してもらい、学校全体で日々の教育活動とESDとを結びつけて取り組んでいけるよう、できることから始めていきたいと考えています。

また、各教科、学校行事、及び特別活動でもSDGsを意識した教科横断的な取組も計画していかなければならないと考えています。